

月報 2022年 9月30日 No.380

石城山岳会

9月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

8月教室山行「尾瀬」

月例山行 平ヶ岳 (2141m)

兵子 (1823m)・前川大滝沢

網張温泉から鬼ヶ城経由で岩手山

早池峰山

母海新道 (北又小屋～親不知)

西鎌尾根を行く槍ヶ岳(3180m)

飯豊山 (2105.2m)

一泊二日 尾瀬顛末記

8月教室山行「尾瀬」

2022年8月6日(土)・7日(日)

教室生5名(西村夫妻、芳賀(恵)、種市、比佐)

会員11名(秋葉、下山田、長谷川、根本、西(由)、小谷野、山縣、蛭田(一)、国井、安部、赤塚(園))

<1日目> 天気：晴れ時々曇り

御池からシャトルバスで沼山峠へ。大江湿原までの木道は濡れて滑りやすい状態。木道のないところは、粘土質で滑りやすく足場をよく確認して進む。樹林帯を抜けると大江湿原が広がる。所々綺麗な花が咲いており、山岳会のベテラン会員さんたちは、花を見るなり名前がスラスラと出てくることに驚かされる。尾瀬沼ビジターセンターの手前から平野家の墓へ。尾瀬にダムの建設計画が持ち上がった際、尾瀬の自然の素晴らしさを訴え、現在の尾瀬を後世に残してくださった平野家先祖代々のお墓。この素晴らしさに感謝を込めて手を合わせる。尾瀬沼ビジターセンターで休憩中後、沼尻休憩所を目指す。途中の木道は濡れて滑りやすく、転倒者が続出。沼尻休憩所に近づくと、小雨が降る。空を見ながら、カップを着用すべきか、



判断に迷う。ベテラン会員さんのアドバイスで、カップは着用せず、先を進める。カップの着用のタイミングは、とても難しいように思えた。天気や気温、雲の流れなどからの判断。場合によっては低体温や脱水を引き起こすこともあるため、ベテランさんのアドバイスがとても参考になる。

見晴を目指し湿原から樹林帯に入ると、さらに木道は滑りやすい状態に。また時折沢のように石がゴロゴロしているところを登ったり下ったり、時には足を滑らせ転倒する方も。山道は人の行き来があり、



熊の出没注意の看板はあっても、さほど気にせず、ひたすら前進していたが、熊の生息地であることを忘れず、熊との遭遇も想定しなければならない。

13：15頃思っていた以上に早く見晴の檜枝岐小屋に到着する。

14：30頃転倒し右足を負傷、自力歩行困難者がいるとの報告あり救助に向かう。負傷者を救護していたグループは、その現場でベテラン会員さんがストックで松葉杖を作り歩行を試みたり、またロープを使って背負ったりと知識と技術で、負傷者の救護にあたっていた。ケガの状況から、翌日の自力下山は困難との判断で、ヘリによる救助を要請するという、なかなか遭遇できない貴重な場面を見る事ができ、大変良い勉強となった。

<2日目> 天気：晴れ

6：45見晴を出発。昨日に比べれば木道は乾いており、朝露もなく滑って転倒するリスクはなさそうな状態。

7：20平滑の滝を眺めながら、三条の滝を目指す。三条の滝へは、途中ザックをデポして一気に展望台まで下る。

8：00三条の滝に到着。ここに到達できた者にしか見る事ができない、素晴らしく雄大な滝を眺めることができた。滝を見た後は、来た道に戻る。一気に下ってきたところを登るわけなので、結構な急登。途中呼吸が乱れ体調不良になったメンバーがいた。呼吸をゆっくり整えながら、少しずつアミノ酸入りの水分を摂取して回復に向かう。前夜の夕食と今朝の朝食で、主食を抜いたことが気になっていたが、栄養摂取（カロリー摂取）を考えた食事の摂り方は、大変重要であることを振り返る。



燧裏林道を登ったり下ったりを繰り返し、天神田代、上田代を經由し御池を目指す。昼食を摂った場所には、トンボ草というかわいい植物を初めて見る事ができた。昼食後、30分程度歩き13：00御池に無事到着。予定より30分早く到着する。

今回の山行は、教室に入り初めてのお泊り山行。尾瀬の素晴らしさを感じながらも、奥深い自然の中でのアクシデントの対応（負傷者の対応・体調不良者の対応）は、団体山行ではそれぞれが持っている知識や技術・体力で救護にあたることができるが、常に体力作りに心がけるとともに、登山は消費カロリーの多いスポーツと匹敵すると考え、食事摂取や水分の摂り方、救護技術など、これまで培ってきたベテラン会員さんからさらに学ばせていただき、楽しい山行になるよう、意識して臨まなければならないと思った。

[コースタイム]

1日目

沼山峠休憩所8：50→沼山峠展望台9：15→大江湿原→平野家の墓10：05→尾瀬沼ビジターセンター（尾瀬沼）10：20→沼尻休憩所12：00→見晴13：15（檜枝岐小屋泊）

2日目

見晴6：45→平滑ノ滝展望台7：20→三条ノ滝展望台8：00→兎田代分岐→燧裏林道→天神田代→上田代12：25→御池13：00



月例山行 平ヶ岳 (2141m)

2022年8月27日(土)・28日(日)

男性13名 女性3名の総勢16名

日本百名山の中では日帰り登山の最難関と言われる平ヶ岳。正規ルート（鷹ノ巣ルート）のコースタイムは12時間である。だが、会員の登山レベルに差があるため、今回は前泊で、銀山平温泉の宿から中ノ岐登山口までの送迎バス付、以前に皇太子様（現在の天皇陛下）がこのコースを登ったので「プリンスコース」といわれるらくちんコースでの山行でした。

1日目は宿泊地まで、弥彦神社、寺泊での海鮮ランチ、西福寺（日本のミケランジェロ：石川雲蝶の彫刻が素晴らしい！）と観光をし、銀山平温泉「奥只見山荘」に宿泊。

当然のように夕食前から大宴会が始まり、夕食ではさらに新潟の地酒飲み比べ、その後も各部屋で交流を深めた。

2日目は3時に起床、4時前に送迎バスで出発し、奥只見湖側道、林道を1時間30分ほど揺られて中ノ岐登山口に到着した。あいにくの霧雨模様で周囲はガスに覆われて景色が見えず。前夜の酒も抜けずに気分はㇿㇿㇿ。

帰りのバスが12時30分発なので、山頂に辿り着けなくとも10時には下山開始との指示を受け、重い足取りで出発。川を渡り、すぐに急登の始まりである。この登山道は段差の大きい箇所がいくつもあり、足の短い私にとっては結構きつい歩行になった。

2時間ほど樹林帯の中を登ると、視界が開け、ようやく湿原に辿り着いた。雨は降ったりやんだりでは周りはガス、時折山頂付近が姿を現すがすぐにガスの中。それでも木道歩きは気分がいい。大小の池塘、湿原にはイワショウブの群生、水場周辺ではオヤマリンドウ、ハクサンフウロ、キンコウカなど色とりどりの花が咲いていた。（花の種類は自信なし）

9時に三角点に到着したが、樹木に覆われ眺望はない。雨が強くなり、大展望も見えないためその先にある最高点までは行かず、玉子石に向かった。途中で集合写真撮影後、最後の登りの先に石の上に丸い形の石が立っているように見える玉子石が鎮座、不思議な光景である。

下山指示を受けていた10時となり下山開始。登山道はドロドロで、滑らないように慎重に歩いていたが、粘土質の土でツルン、やってしまった！腕時計もズボンも泥だらけになり、途中、ヒカリゴケを見ようと思っていたが、パスして先に下山していた下山田会長とKさんの待つ登山口へ到着。全員が余裕でバス発車時間に間に合い、宿で準備していただいた冷えた缶ビールやコーラをぐいっ！ぶはーっ！！ 疲れが吹き飛ばす心地で、バスの中で眠りについた。

今回は天気には見放されたが、ヘリも呼ばず、けが人もなく無事山行を終えた。県民割を利用して快適なロッジで飲み放題？の宿泊、魚沼市のクーポン利用とコシヒカリのお土産付きで追加料金なしと満喫した2日間を送ることができた。幹事のこばけんさんに感謝です、ありがとうございました。

（文責：西(重)）

[コースタイム]

5:45 中ノ岐登山口→8:05 玉子石分岐→9:00 平ヶ岳（三角点）→9:30 池ノ岳（姫ノ池）
→10:00 玉子石→11:50 中ノ岐登山口



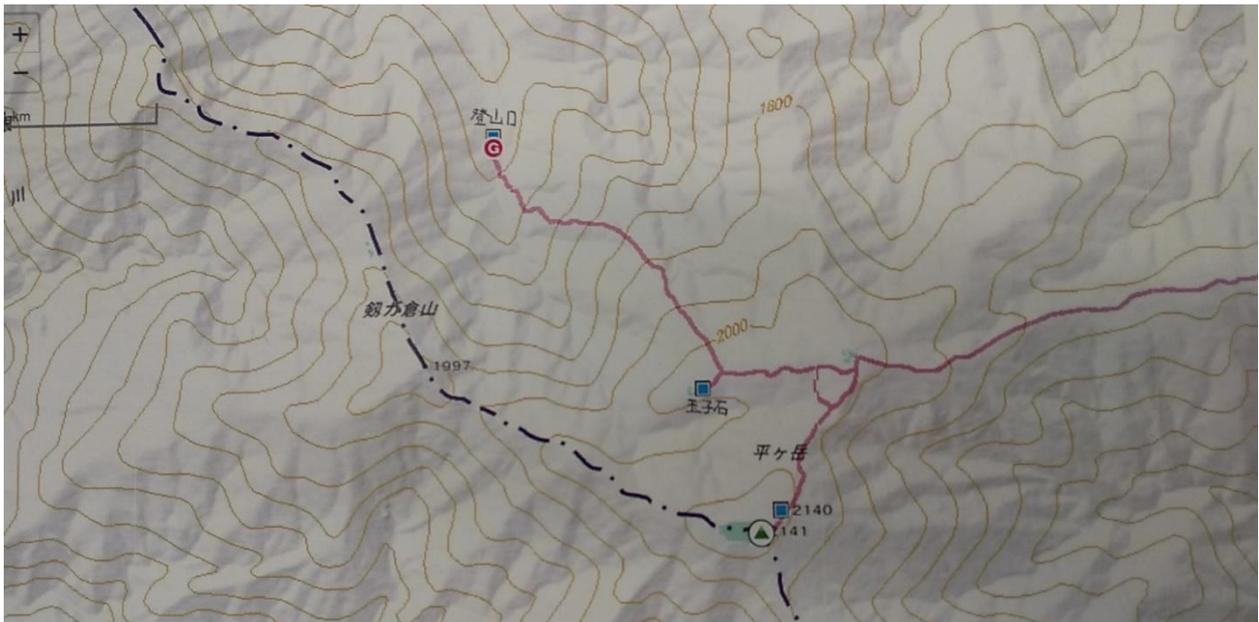
平ヶ岳山頂方面



玉子石



平ヶ岳はガスの中・・・
(姫ノ池)



兵子（1823m）・前川大滝沢

2022年9月5日(月)・6日(火)

秋葉、栗崎(透)、山中

当日、到着した時の天気がイマイチだったため予定を変更して初日に兵子に登ることにしました。

兵子の登山口は姥湯手前にある駐車場にありました。駐車場からは梯子を登るところから始まりです。梯子を登ると初めのうちはなだらかな登山道ですが途中から登りになりました。雲を抜けると天気も良くなっていて雲海から山頂部のみ出ている高倉山が望めました。大日岳には三角点がありましたが、展望は良くありませんでした。大日岳からは一旦下りになってから登り、尾根をトラバースして急登を登ると兵子の山頂に着きました。山頂にはご夫婦の先客がいて、しばらくして家形山から来た単独行の登山者が登ってきました。山頂からの眺望が良く、一切経山、家形山、烏帽子山、東大巔などが望めました。

[コースタイム]

兵子登山口 10:05→大日岳 11:10→12:00 兵子 12:45→大日岳 13:50

→兵子登山口 14:40



兵子から下山すると姥湯の露天風呂で疲れを癒してから、峠の茶屋でビールそばの夕食を取り、その後は反省会を峠駅の待合室で行い、そのまま待合室が宿になってしまいました。



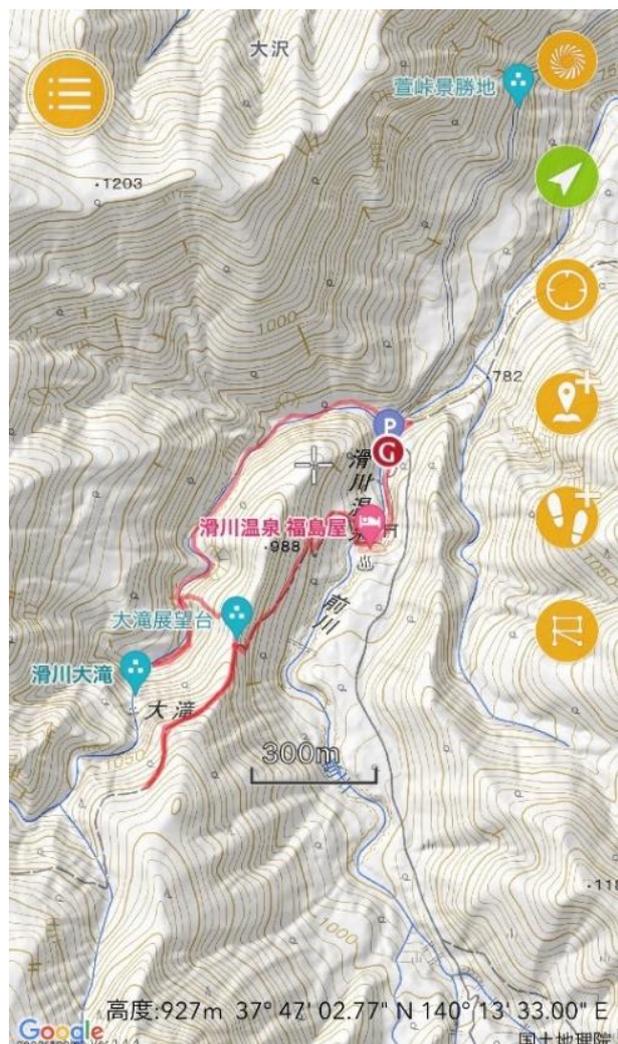
2日目は天気が良く沢の水の量も多くなり沢登りにはコンディションばっちりです。滑川温泉手前の滑川橋の下を降りて沢に入りました。沢は一枚岩で、最初は歩きやすかったです。その後すぐに2段の滝が現れたが滝の脇の岩を直登することが出来ました。その後はなだらかな赤いナメが続き歩きを楽しむことが出来ました。1時間ほどすると滑川大滝が目の前に現れました！これも一枚岩で迫力満点！しばらく見入っていました。ここから沢を少し戻って大滝を巻く尾根歩きのコースを登りまし

た。登山道に合流して大滝展望台を経てしばらくして沢に再び降りるのですがそのルートは崩落？で絶壁になっていて下降は無理ということで、今回はここから引き返すことになりました。名残惜しい沢登りになりましたが、心地よいナメの沢を歩いて、滑川大滝も見ることができ満足しました。また、来シーズンも来たいと思いました。

[コースタイム]

滑川橋 6:50 → 滑川大滝 7:45 → 大滝展望台 8:25 → 滑川橋 9:45

(文責：山中)



網張温泉から鬼ヶ城経由で岩手山

2022年9月10日(土)・11日(日)

小林、他1名



2018年に登山教室で登った時に見た鬼ヶ城を歩きたいと思い、リフトの魅力で網張温泉スキー場から鬼ヶ城コースで登り、御花畑コース下山で岩手山へ1泊2日で行ってきました。

予定より少し早く網張温泉スキー場に到着し、青空の元ワクワクしながらリフト3本を乗り継いでスタートしました(下山も利用の場合は下山日を言うとスタンプを押してくれて往復料金で利用できるみたいです 片道1,400円、往復1,700円)。

犬倉山へは観光の方も多く、標識があったので安心して次に進みましたが残念ながら山頂を踏んでいませんでした。姥倉山はパスして黒倉山から切通しへ、ここから鬼ヶ城コースに進みました。

鬼ヶ城コースは見た目は厳しそうですが、ほぼ巻道のような登山道がしっかりありました。ただ、ガレ場、ザレ場など歩きやすくはありませんがすごく危険な箇所はほぼ無いように感じました。

不動平避難小屋へ下り、中を覗くと既に利用している方は数名程度、思ったよりきれいな避難小屋でした。八合目が混んでいたら水を汲んでここまで戻って来ようと八合目避難小屋に向いました。



八合目避難小屋で小屋番さんに利用状況を聞くと20~30名程度かなとのことでしたので、水場と明日のご来光を考え、ここで泊まりました(最終的にはもう少し人数が多かったかなーと思います)。前回販売していたと思うのですがビールは売っていないとのこと。念のため持参したビール(持ってきてよかったー)で乾杯し、早めの夕食としました。

鬼ヶ城に沈む夕日を眺め、小屋で明日の準備をしてから外に出るとちょうど月が昇ってきました。今日は中秋の名月、まん丸のお月様がきれいでした。



翌日は小屋前でご来光を眺めてから山頂へ向かいました。なんと、その途中で山友とバツタリ(こんなところで会うなんて思いもよらず・・・)。不動平避難小屋前にザックをデポし、昨日購入した手ぬぐいの登頂日が空手形にならないよう登頂しました。山頂からは八幡平や秋田駒ヶ岳はもちろん、

鳥海山？も見えていたように思います。不動平避難小屋前で朝食後、御花畑コースで下山しました。名前のイメージよりは急な下りもあり、登山道も狭いので慎重に下山です。

途中、丸太で階段状になっているところでつま先が引っかかり体が前方に投げ出されましたが、咄嗟に笹を掴んでグルリと1回転 背負い投げをされたような格好でお尻から横の笹藪に無事着地しケガなしですみました。

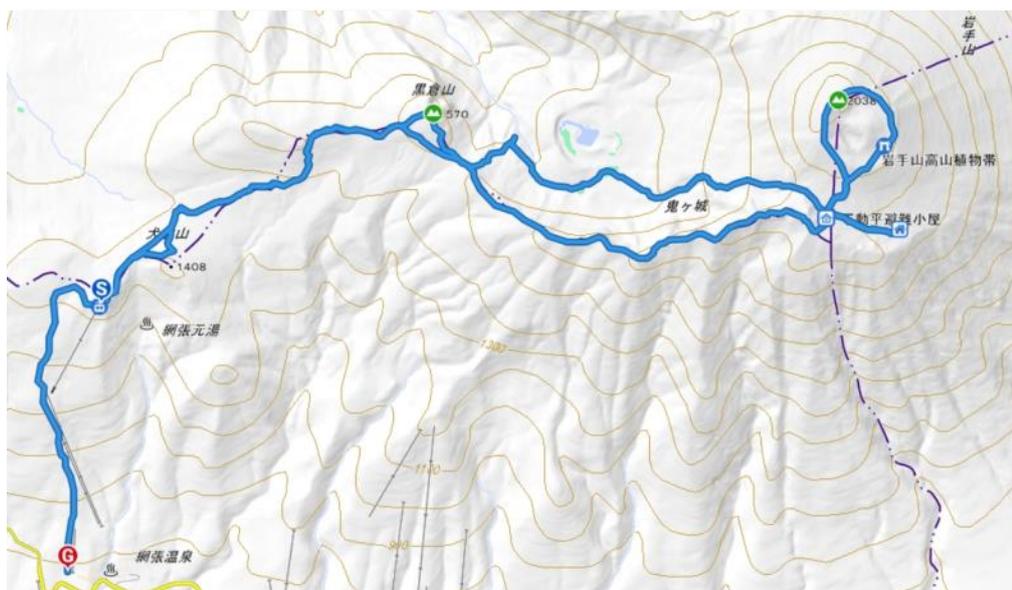
第3リフトからは下りもリフトにしておけば良かったかなーと少し後悔しながらスキー場の登山道を降り無事下山しました。

ありね山荘で入浴後、山友さんに教えていただいたお店「松ぼっくり」(人気のお店で行列でしたが回転は速いです)でジェラードを食べ(おいしかったです)、今日の宿泊地 台温泉に向いました。

[コースタイム] (20.2km 登り 1,370m、下り 1,931m)

第3リフト降場 8:54~犬倉山~11:00黒倉山~11:35切通し~鬼ヶ城コース~14:50 不動平避難小屋~15:10 八合目避難小屋 (泊) 5:50~6:50 岩手山 7:00~7:30 不動平避難小屋 8:10~御花畑コース~9:05 御花畑~9:35 大地獄分岐~10:00 切通し~11:20 水場~11:45 第3リフト降場~12:40 登山口

(文責：小林)



《番外》

お盆休みに鳥取県の三徳山投入堂に行ってきました。投入堂までは距離は短いものの、岩場もあり少し登山気分でした。楽しかったです。

一人での入山不可、靴の裏(滑らないか)を二回もチェックされ、不可の場合はわらじを購入して右のように履き替えなさいとのこと。

死ぬまでに見ておくべき100の建築に選ばれています。よくこんな所に造ったものです。昔の人はすごいと感動しました。



早池峰山

2022年9月12日(月) 小林、他1名

岩手3日目は早池峰山です。宿でしっかり朝ごはんを頂いてから、河原の坊駐車場に向かいました。



まずは車道を歩いて小田越の登山口からスタートしました。樹林帯を抜けると圧倒されるような斜面がドーンと目の前に広がり、あそこまで登るのかーという気持ちと、反面ワクワクの期待が膨らみます。昨日の岩手山と比べると、岩はゴロゴロしていますが、登山道が広く歩きやすい登山道でした(ただ、岩が蛇紋岩で滑りやすいので要注意)。ナンブトウチソウの花畑など途中花々に癒されながら、一つ目の斜面を登りきるとさらに先がドーンと現れます。

その他にナンブトラノオやタカネナデシコなどがありました。ハヤチネウスユキソウは残念ながら気付かず。

早池峰山の映像でよく見るハシゴを登り、稜線を歩いて山頂に到着しました。山頂到着前にガスが上がってきて、空は晴れているものの周囲の山々はほとんど見えません、少し休憩して下山しました。樹林帯の手前で山を見ながらゆっくりコーヒータイムを楽しんだ後、小田越登山口に下山しました。



ナンブトウチソウ



ナンブトラノオ

車道歩きが少し難点ですが(シーズンは車両乗入れ規制でシャトルバスで小田越まで行ける)、予想以上に良い山で大満足の日でした。



【コースタイム】 (8.7km 登り 862m)

河原の坊 9:10~9:42 小田越 9:50~五合目 御金蔵 11:14~12:05 早池峰山 12:25~五合目 13:00~14:10 小田越~14:37 河原の坊

(文責: 小林)

梅海新道（北又小屋～親不知）

2022年9月15日(木)～18日(日)

西(由)、秋葉、伊藤(健)、栗崎(透) (容)、根本、渋谷



まずは、この計画を立て実行に至るにあたり、尽力された西(由)さんに感謝します。

15日 親不知観光ホテルへ移動。ホテルの支配人のアドバイスにより、最初に海へ。その後ホテルへ戻り明日からの英気を養うため贅を尽くした食事を堪能し翌朝に備える。



16日 朝5時、タクシーにて北又登山口へ移動する。激しい山道を運転手さんの優しい運転に揺られながら約一時間。北又小屋は静かな山奥にあり、綺麗なトイレも完備。ここで朝食を済ませ、しっかりと準備を整える。いよいよ出発！「梅海新道へ向かうぞー！・オーッ！」と、不安な前向き。(6時30分登山開始)



いきなりの吊り橋。手摺りは低め、下はスケスケ。皆で渡れば怖くないと言うのはウソですね。揺れて怖いです。ここですでに半ベそでした。

帰りたけれど帰れない。。。呪文を唱えながら前者のザックを一点に見つめ無事渡りきりました。全員が渡りきり、朝日小屋へ向けて歩き出す。

寝不足の体に効く急登。まずはイブリ山へ。

イブリ山までは100㍍登る毎に1合目・2合目と道標があります。途中開ける箇所から見える山々は、日常生活を忘れさせてくれるほど、素晴らしい景色！

もう来られないかもしれないと思うと、しっかりと目に焼き付けておきたくなります。



休憩をしながらひたすら登る事5時間。やっとイブリ山へ着きました。東北では見掛けない花々を愛でながら昼食を済ませる。

この日は、台風が近づいていたせいもあり、湿度がかなりありました。ちょっと恥じらいながらも大胆な気持ちになってしまうのも、分かる気がします。平日という事もありますが、ここの登山道はあまり人がおりません。もう少し大胆になっても良かったのでは？(笑)

休憩をすませ、朝日小屋へ向かう。途中にある夕日が原は、まさに天上の楽園！シーズンから外れた時期でも圧巻の景色。ハイシーズンはきっと感動しかないと思います。火照った身体を草原のそよ風が落ち着かせてくれます。程なくすると、今夜の宿泊所「朝日小屋」に着く。休憩を取りながら歩いても、8時間で着きます。



酷い湿度に汗を絞られながら登って来た！
お待ちかねのビールタイムです。
この小屋ご自慢の夕食に触らないよう1本で我慢。



おでん、鉄板焼き、そうめん、ホタルイカの沖漬け、カジキの昆布締め等々、確かにご自慢のお料理が並びます。どれも優しい味付けで（薄い訳ではありません）、今日の疲れた身体に染みしました。

明日は、いよいよ梅海新道。
昨夜の寝不足もあって、早めの就寝。
（本日の行程8時間）

17日 朝日小屋を4時に出発。朝日岳へと向かう。

ヘッドランプの明かりを頼りに黙々と歩く。起きたばかりの身体に鞭打ちながら朝日岳への道のりの途中から、少しずつ明るくなり始める。



モノゲンルートと雲海。
シャッターを切らずにはられません。

景色を堪能し、吹上のコルを目指す。
コルにて朝食を済ませる。
(さて、ここから梅海新道は本気出してくるよ!)
と、またまた不安な前向きで出発準備。



ここからの道のりは、北アルプスの余韻を残しつつ、里山の雰囲気を感じ出していました。とても気持ちの良い道を進む。

長梅山、アヤメ平、黒岩平、黒岩山、サワガニ山と続く。登っては降り、降りては登るの繰り返し。

ふと気づくと、トンボの多さに驚いた。
少し標高を下げるだけで、昆虫の生態も変わるのだと初めて気づいたように思う。

ここからの道のりは、昆虫に注目してしまいました(笑)

この日は、素晴らしく天候に恵まれ、熱中症の心配もあるほど。

稜線歩きのため、日影が乏しく止めどなく流れる汗、汗、汗でクタクタです。

いくつか鎖場を通過し、次々と現れる急登と直登。。小まめに休憩を入れる。

ハイドレーションの水分がなくなる頃、水場へと



着きました。沢の水を使って作った甘酒は、身体に染み入ります~~~~。

少し大きな休憩を取り、次に登る山は犬ヶ岳。
水分をたっぷり含んだザックを背負い急登から始まる。さっき飲んだ甘酒も、もう出てしまったんじゃないかと思う位の汗が出てしまいました。取り付いてからどのくらいの二セ犬を乗り越えただろう。そして、、、スリリングな細尾根と山頂に着いた。犬ヶ岳からの眺望は、今まで歩いてきた道のりがくっきりと見渡せる。
感動で涙が出た。



遠くから、ごま粒の様に見えた梅海山荘もあと一息！



犬ヶ岳から梅海山荘へ向かう途中に、この梅海新道を開拓された「小野 健」さんの記念碑があります。この素晴らしい山道に感謝しつつ、梅海山荘へ到着！

先に着いていた栗崎シェフが、ご飯の支度をしていてくれました。感謝・感謝です。

そう。私たちは「シェフ」がいる登山隊。食べ物が無くなっても、野草料理を作ってくれそ

う！食べ物に困ることが無さそうで心強いです(笑)



梅海山荘と衝撃的なキジ場。(本日の行程 12 時間)

18日（最終日）

梅海山荘を4時に出発。本日も天候に恵まれての出発だが、連日の疲れもあり慎重に足を進める。標高を下げながら、いくつもの山を越える。ヤブ蚊も多くなり刺され始めるようになった。

白鳥山への取り付け。最後の直登は疲れた身体に堪える。白鳥山で大休憩を取り、激下りが始まる。

出発してから黄連山、菊石山、下駒ヶ岳、白鳥山を経て山姥平、シキ割の水場へ着いた。とても気持ちよい水場で、ここでも大休憩。その後、坂田峠でゴール。

（本日の行程 11 時間）

怪我なく、無事に梅海新道を歩けた。



以下、参加者からのコメント。

・西(由) 「縦走ならではの景色と植生に感動だらけの山旅でした。自販機、コーラだけは皆品切れ」

・秋葉 「きつい登りの後、朝日小屋の食事は絶品。初めて見たコウメバチソウ。白馬岳、剱岳、雨飾山、戸隠山など展望抜群。へろへろになって親不知の海が見えた感動はひとしお。」

・伊藤 「距離があり大変ですが、景色の変化を感じられ、終始静かで達成感を得られる良いルートでした。」

・栗崎(透) 「約3年ぶりのアルプスはやっぱり素晴らしく、清清する空間でした。西リーダーに感謝です！ありがとう。」

・栗崎(容) 「西リーダーを始め、山行で一緒した皆さん、お世話になりました。お天気にも恵まれ新潟の山&海を堪能した四日間でしたね♪」

・根本 「70代最後の長丁場を無事に完走できた自分の足と同行者に感謝です！」

・渋谷 「犬ヶ岳を境に振り返れば北アルプスの山脈、行く先を見ると里山と海。景色、植生、生態の変化を感じられる素敵なルートでした。」

（文責：渋谷）

西鎌尾根を行く槍ヶ岳(3180m)

2022年9月24日(土)~28日(水)

赤塚(園)、太、菅野、山縣

北アルプスの尾根に登ると、どこからでも眺められ、屹立する山容に感動して憧れる槍ヶ岳。その姿を見ながら登って行きたいとの思いで計画された4泊5日の山行。台風通過の影響等もあり、何度か日程変更もあったが、諦めずに実行することができた。

登山口アクセスは、混雑とバス乗換煩雑を避け、沢渡駐車場ではなく、あかんだな駐車場に車を停め、路線バスで新穂高温泉に向かった。登山指導センターで登山届を提出し、左俣林道を歩いた。わさび平小屋に着くと、さっそく入浴。夕食時ビールで鋭気を養う。翌日から本格的な山行。

翌早朝から小池新道を登って、鏡池では水面に映る槍・穂高連峰を楽しんだ。鏡平小屋、弓折乗越を経て双六小屋に到着するが、なかなか急登だった。小屋にザックを預け双六岳山頂を往復。ここまで来ると、雲ノ平、水晶岳、鷲羽岳、三俣蓮華岳、黒部五郎岳など眺められる。天気感謝。

翌日、西鎌尾根の起点、縦沢岳に登ると、その先は槍に向かったのアップダウン。北鎌・東鎌と比べて危険度は低いらしいが、谷底への急斜面の上を通り、クサリ場もある。最後の急登を終えて槍ヶ岳山荘着くと、部屋で準備を整え、槍ヶ岳頂上に挑む。晴天無風で連休明けの平日、混雑もなくハシゴを上る。茶を飲んで山頂で1時間ほど過ごし、全周囲展望を楽しむ。前日から見えていた山々のほか、燕岳、大天井岳、常念岳、蝶ヶ岳も見えて、遠くにはハケ岳、富士、南アルプス、御嶽など望めた。足下には槍ヶ岳山荘、ここまでのルート。二度とない貴重な時間を過ごすことができた。

翌日からは下山だが、天狗池に立ち寄りながら槍沢を下る。天狗池に映る逆さ槍ヶ岳を眺めるためである。ちょうど池の周囲で紅葉しており、とても素敵だった。その後、梓川沿いに樹林の道を下る途中、横尾山荘に1泊して3日ぶりに入浴した。

横尾山荘を出てからは、奥上高地を散策しながらバスターミナルへと向かう。途中で明神池・穂高神社奥宮に立ち寄り、参道わき、英国人宣教師ウェストンの登山案内人だった上條嘉門次ゆかりの小屋にて囲炉裏で焼いたイワナも食した。上高地バスターミナルからは、シャトルバスであかんだな駐車場に戻り、現地での行動はすべて終了。平湯温泉で汗を落とし、帰りがけに松本の登山用品専門店で購入してから、いわき市へと帰った。

槍ヶ岳に至るコース計画も距離は長いが、高低差的、行動時間的に余裕ある行程で、この上ない条件での山行だった。

全行程概要と[コースタイム]

9月24日(土)小雨 新穂高温泉から 移動 4.8km

5:00 いわき市→11:30 あかんだな駐車場→11:40 平湯温泉バスターミナル 12:40
→バス→13:20 新穂高温泉 13:50→15:10 わさび平小屋(泊) ※小屋で入浴

9月25日(日)晴れ 双六岳(2860m) 移動 11.5km

5:20 わさび平小屋→8:50 鏡平山荘→10:10 弓折乗越→12:00 双六小屋→13:20 双六岳
→14:30 双六小屋(泊)

9月26日(月)晴れ 樺沢岳 (2755m)・左俣岳 (2674m)・槍ヶ岳 (3180m) 移動 6.6km
 6:00 双六小屋→6:10 樺沢岳→7:40 左俣岳→10:30 千丈乗越→10:50 槍ヶ岳山荘
 →12:00 槍ヶ岳 12:50→13:20 槍ヶ岳山荘 (泊)

9月27日(火)晴れ時々曇り 天狗池 移動 10.9km
 6:10 槍ヶ岳山荘→7:00 坊主岩小屋→8:20 天狗池 9:20→10:40 ババ平キャンプ場
 →11:10 槍沢ロッヂ→13:10 横尾山荘 (泊) ※小屋で入浴

9月28日(水)霧雨・曇り 移動 11.5km 下山、上高地散策、入浴・買物
 6:55 横尾山荘→7:45 徳澤園→9:00 嘉門次小屋 (明神池) 9:30→10:40 河童橋
 →10:50 上高地バスターミナル 11:00→バス→11:30 あかんだな駐車場
 →平湯温泉入浴・松本市内買物→20:30 いわき市

(文責：太)



わさび平小屋に着く (翌日から登山)



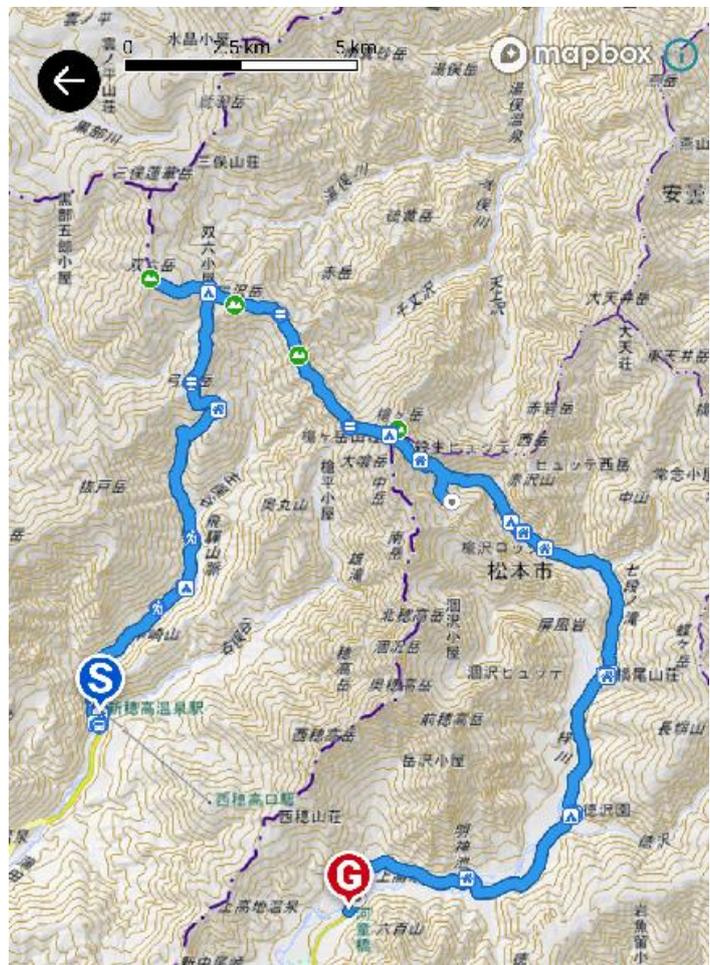
双六岳の山頂



広々とした双六岳の肩を下る

[小屋情報]

今回利用した各小屋とも、焼き魚、煮物、揚げ物など工夫 (冷食加熱?) された食事を提供。山行用お湯サービスは、魔法瓶式ポットからのセルフが多い。スマホ充電は、少ないがコンセント等電源があった。トイレは、洋式便座でも水洗式はない。わさび平小屋の風呂には、石鹸・シャンプーがあった。酒類はビール以外も自販機販売あり (500 ml缶ビールは高い小屋でも 800 円)。宿泊料金は、わさび平小屋だけ 1泊2食1万円で、ほかは 1.3万円だった。





西鎌尾根を行く



槍ヶ岳から見る槍ヶ岳山荘



槍ヶ岳の山頂



祝杯



手前：横通岳、常念岳、蝶槍、蝶ヶ岳、奥：八ヶ岳、富士、南アルプス



記念撮影



夕陽に染まる槍ヶ岳と小槍、槍ヶ岳山荘
槍沢を下る



紅葉の天狗池に映る逆さ槍ヶ岳

飯豊山 (2105.2m)

2022年9月25(日)~27日(火) 秋葉

25年前頃にダイグラ尾根を下降したことがある。20年前頃には、1日目・石転び雪渓を登って、梅花皮小屋でテント泊。2日目・尾西小屋から大日岳ピストン、雨のため本山小屋泊。3日目・ダイグラ尾根を下る予定だったが大雨で危険なため、切合小屋から大日杉に下山したことがある。

先々週、梅海新道を歩き、お土産の和菓子「梅海新道」に描いてあったスケッチの山座同定をしていたら、ものすごく絵がかきたくなって、スケッチの山旅に出かけた。

24日 午後発、飯豊山荘の登山口で車中泊、約4時間。

25日 ヘッドランプを点けて梶川尾根を登る。いきなりの急登だ。登るにつれて明るくなってきた。滝見台、梶川峰等でスケッチをしながらのノンビリ山行だが、12時には門内小屋に着いてしまった。

門内小屋は今年改築工事中でしばらく使用できなかったが、屋根と外装が改築され、内装はそのままだった。時間が早いので梅花皮小屋まで足を延ばす。宿泊者が少ないので小屋泊まりとする。約12人宿泊。

[コースタイム]

登山口 5:00 → 滝見台 8:00 → 梶川峰 11:00 → 門内小屋 12:00 → 梅花皮小屋 14:30



26日 ヘッドランプを付けて出発、ガスで展望はない。梅花皮岳、烏帽子岳を過ぎ、カブト池、亮平の池、御手洗の池などの広々とした稜線草原を進む。もっと早い時期だと一面のお花畑で、もう一度歩きたいと思っていたところだ。展望もなく時間も早いので尾西小屋でノンビリする。尾西小屋を出発すると徐々にガスが薄れてきた。駒形山まで来るとすっかり晴れて展望が広がってきた。要所でスケッチをしながらも早い時間に着いてしまった。

[コースタイム]

梅花皮小屋 5:00 → 梅花皮岳 5:30 → 烏帽子岳 6:10 → 尾西小屋 9:00~9:30
→ 駒形山 10:30~11:30 → 飯豊山 12:00~13:30 → テント場 14:00

27日 ヘッドランプを点けてテントを片付けていると、突然ヘッドランプが消えた。おそらく電池切れだろう、明るくなってきたのでランプを外し石の上に置く。出発しようとする、どうしてもランプが見つからない。無いということはザックの中に入っているだろうと出発する。

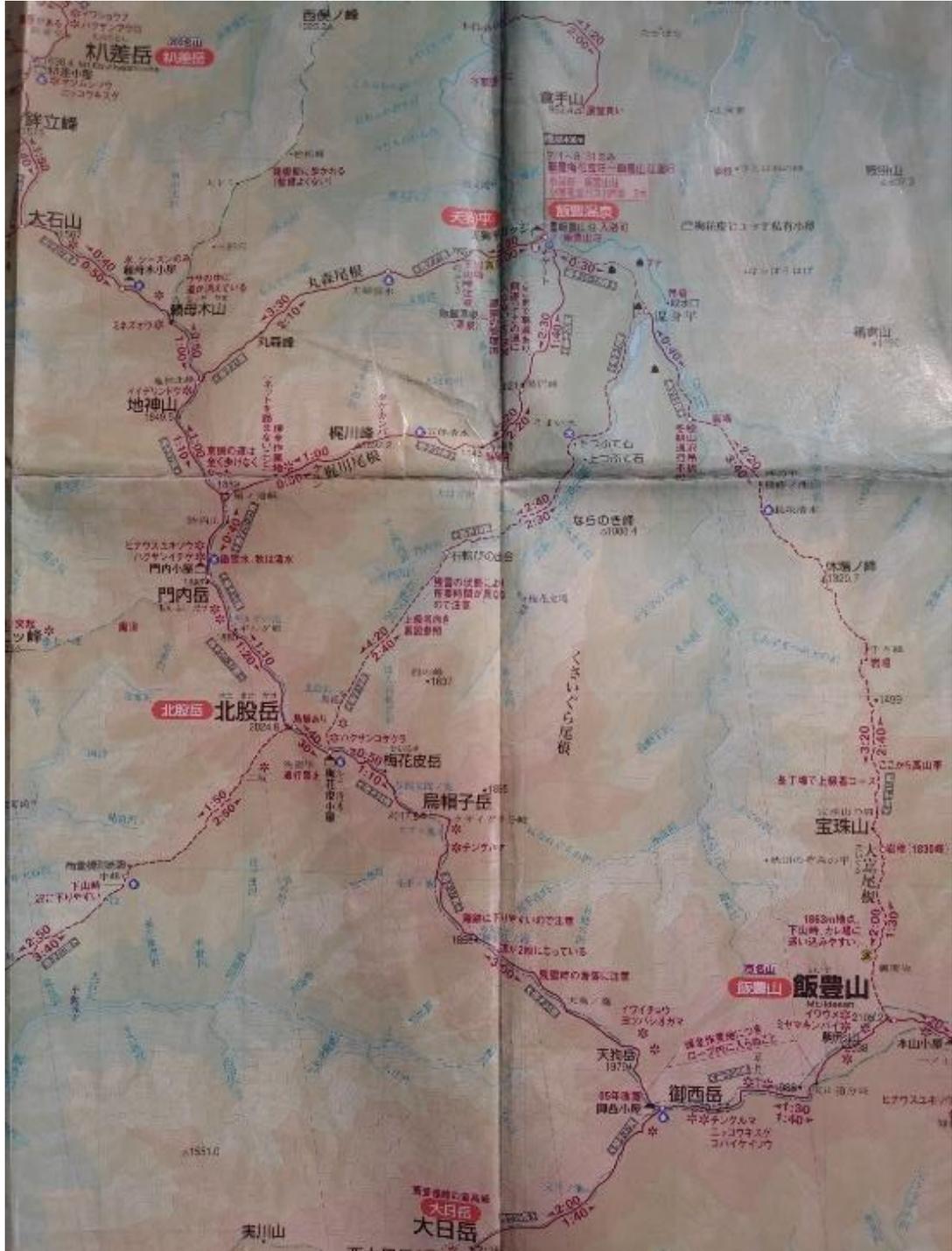
ダイグラ尾根は急、足場が悪い、滑る、下りだけで無く急登もあり、なかなかの路である。

飯豊山荘で入浴し帰路に着く。 帰宅シザックを調べたがヘッドランプは無かった。

[コースタイム]

テント場 5:20 → 飯豊山 5:50 → 宝珠山 8:00 → 休場の峰 10:40 → 桧山沢吊橋 12:30 → 温平 13:00 → 飯豊山荘 13:30
帰宅 18:00

(文責：秋葉)



一泊二日 尾瀬顛末記

2020年8月9日執筆

本文：蛭田(一)

8月6日、7日尾瀬を目指しました。

教室生と山岳会16人が午前4時、合同庁舎をバスで出発。天気は桧枝岐を通過する頃は快晴です。

8時、御池から沼山へシャトルバスで移動。西(由)さんとカメラ談義、登山開始。みなさん元気です。

10時頃ビジターセンター到着。小休憩後やさしいコースを選びます。

教室生の比佐さんからメダカの飼育の仕方を教えてもらい、それから沼尻休憩所(休業中)で昼食、雨がパラパラ。

12時見晴の小屋を目指して出発。12時30分頃白砂峠の登り下りに差し掛かり、濡れた木道で足を取られていきなりの転倒、右足が動かない。ヤッチマツタです。

すぐ後ろを歩いていた西(由)さん、赤塚(園)さんが駆けつけてくれて靴を脱がし、湿布を貼り、後続のみんなが来るのを待ちます。

秋葉さん、下山田さん、安部さん、種市さんたちと合流。自分は過呼吸、唇は乾いている、転倒時パキッと音がした。骨折か、捻挫か、とにかく処置が始まりました。

秋葉さんを中心に足首を固定、ストックを使った松葉杖を作り、前かがみにならないようにスリングで後ろから支えてもらう。

「すみません申し訳ない」とみなさんに言ったら、安部さんから「そんな気にしないで勉強になっているから」との返答。

そして歩き始める、歩けない。種市さんが背中を出しておぶって歩く。荒れている道の登り下りは自力で歩く。進むのは遅い。またおぶってもらう。背負われた自分の尻を2本のストックで支える。「こういうときはすべて委ねて」の声。

そうこうしていると、山小屋に到着していた小谷野さん、芳賀(恵)さん(教室生)、比佐さん(教室生)、根本さん、国井さんが遭難者運搬用のソリと毛布を持って迎えにきてくれ、長谷川さんが無線で山小屋に先についていた山縣さんと交信、桧枝岐小屋のオーナーと連絡を取り、防災ヘリを要請しました。

ソリは芳賀(恵)さん比佐さんが両サイドを支えてくれて山小屋に到着。到着した安心感からか、他の皆さんはビールで乾杯、始まりました。自分はクークークーです。

山縣さんから「蛭田(一)さんトイレは大丈夫？ヘリの中でビビーはまずいよ」、そうだトイレ。でも歩けない、西(由)さん、種市さんに抱えられてトイレへ。タガが外れたようにバババーと、山縣さん適切なアドバイスありがとうございました。

山小屋での夕暮れ時、開放感、達成感、仲間との他愛ない話、非日常の空間、そんな貴重な時間を奪ってしまい申し訳ない気持ちでした。

防災ヘリで吊り上げられているとき、「これから先どんな生活になるのかな？」「街なかコンサートはダメかも」などなど頭の中を巡回していました。

50分ほどで山形空港隣の防災ヘリポートに着陸、救急車で山形総合病院へ。レントゲン検査の結果、右足首くるぶし下の小骨の骨折と靭帯損傷。そのほかの身体部位は異常なしです。

娘に迎えに来てもらい、深夜の2時頃帰宅できました。なので2日目の尾瀬はありませんでした。

今回参加された 15 人のみなさん、蛭田(一)は心から感謝申し上げます、ありがとうございました。

追記：下山田

午後 5 時頃、上空にヘリコプターの音がして、山形県警航空隊の救助ヘリが飛来し、我々の見守る中、蛭田(一)さんが、上空 30 メートルでホバーリングしているヘリに収容され飛び去るのを確認し「ホット」安心したが桧枝岐小屋の主人に聞いたところ、福島のは業務多忙で今回は山形から来たヘリは福島でなく山形に搬送するとのことでした。

後日蛭田(一)さんに聞いたところ、山形のヘリポートから、救急車で山形市立病院・再生館に運ばれ、レントゲンを受け添え木をされ家族が迎えに来て当日の午前 2 時に自宅につき、翌日近くの磐城中央クリニック病院で再検査をしたところ、足の骨折が意外に重症で右足関節外果骨骨折（じん帯と骨の関係が絡み合っている）ということで「いわき医療センター」での手術が必要で 8 月 11 日(木)入院・8 月 16 日(火)手術（晴が治まるのを待って）、無事 9 月 4 日(日)退院となりました。

先生からは、登山は 3 週間は様子を見てくださいと言われたそうです。

※反省点として

1. 当時木道の下り坂で滑る危険があったが、滑り止めのロープを持っていたが靴に巻けば良かった。

と話をしていました。

2. 赤塚(園)さん、西(由)さんの救護、秋葉さんのストックを使った松葉杖、種石さんに背負われての搬送・安部さん、国井さん、根本さん、小谷野さん、芳賀(恵)さん、長谷川さん等の担架での搬送、皆さんの励まし、大変うれしかったと感謝していました。

